

有効なギャンブル依存症対策とは？

－ 現場からの報告 －



(社) ギャンブル依存症問題を考える会
代表 田中 紀子

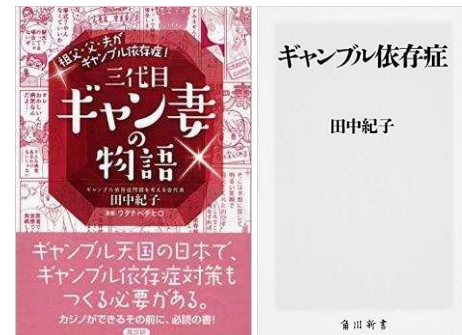
自己紹介

- 父が競輪依存症で、会社のお金を横領
- 母の実家に戻るも、実家の祖父がパチンコ依存症で貧困生活
- 1995年 競艇依存症の夫と出会い、自身も競艇とカジノ依存症に
- 1999年 ギャンブル依存症の夫と結婚
- 2004年 ギャンブル依存症を知り自助グループに繋がる
- 2014年 ギャンブル依存症問題を考える会設立
- 2018年 国立精神・神経医療研究センター 研究生

• 著書

「三代目ギャン妻の物語」

「ギャンブル依存症」



行動依存について



依存症の種類

物質に依存するタイプ

- ◆ アルコール
- ◆ 薬物
- ◆ タバコ
- ◆ 摂食障害
(食べ物) など

行動に依存するタイプ

- ギャンブル
- 買い物
- 窃盗、万引き
- リストカット
- ネット/ゲーム/
スマホ など

※もしくはこれらの複合型、移行型があります



推定人数

ギャンブル依存症

2008年 厚労省発表
560万人

2014年 厚労省発表
536万人

2017年 厚労省発表
320万人

ネット依存症

2008年度 厚労省発表
成人 271万人

2014年度 厚労省発表
成人 421万人

2011年度 厚労省発表
中高生 51万人



依存症とは？

- 物質や、プロセスや、関係性に頼りすぎ、そのために問題が生じているのにもかかわらず、なかなかそれを止められない状態で、WHO（世界保健機関）でも認められた、**病気**です。
- **脳に化学変化がおきている**ことが分かっており、神経伝達物質である**ドーパミン**が深く関わっています。

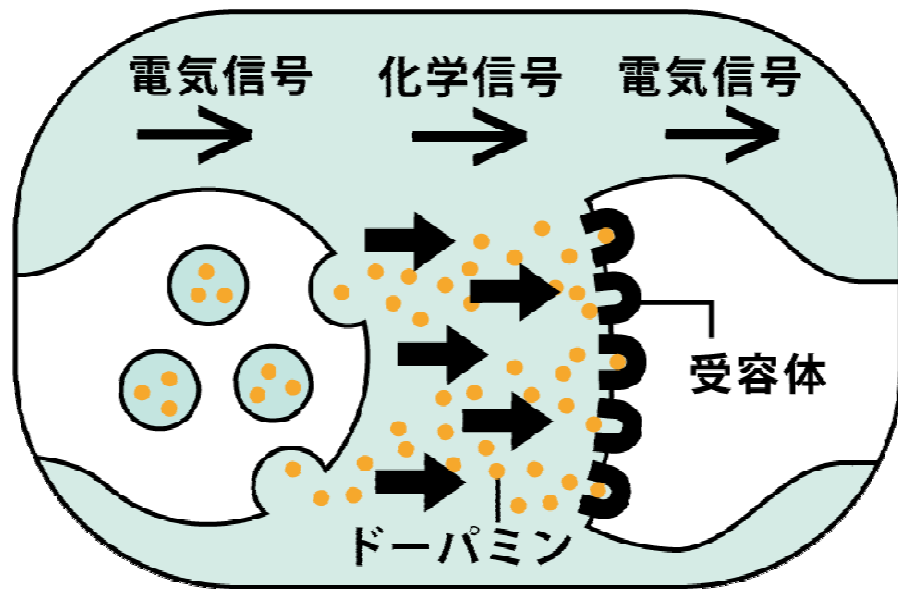
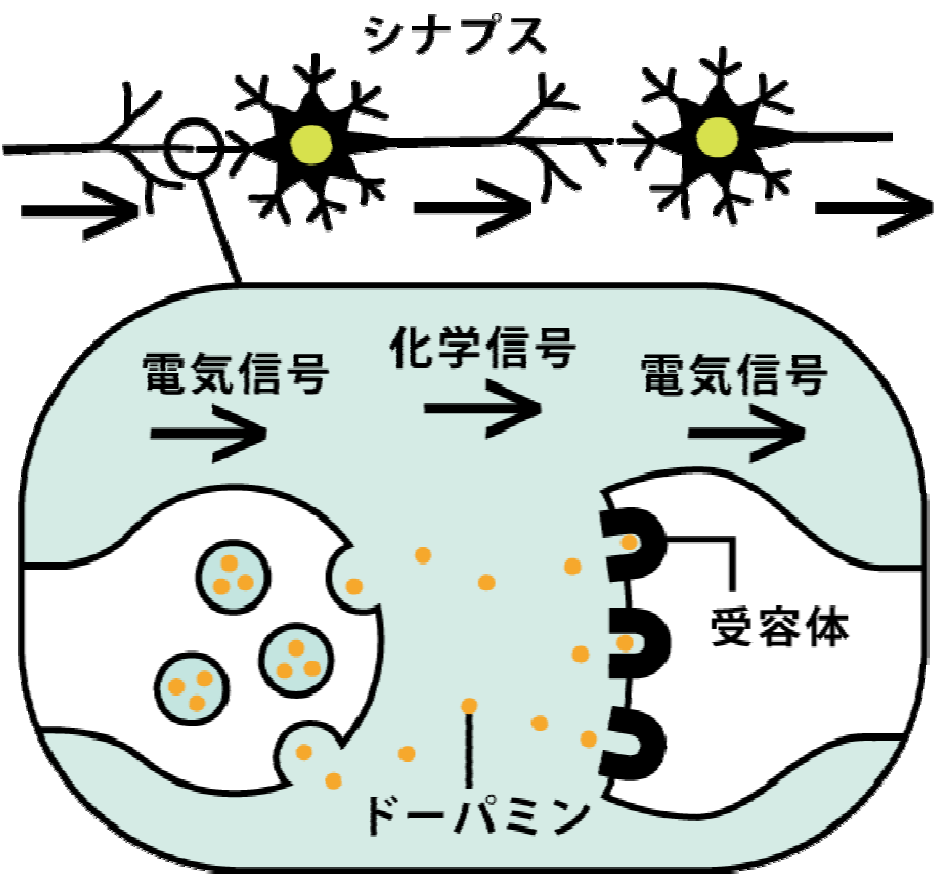
ドーパミンとは？

- 報酬系と呼ばれ、快樂を感じる直接の源となっている物質です。
- 「頑張っている自分へのご褒美」として、ドーパミンはうまく働いていれば、勉強や仕事、スポーツなどの努力を続けることに役立ちます。
- 依存症はドーパミンが過剰に働いている状態で、それは生存本能をも脅かします。

ドーパミンと依存症

ギャンブル依存症問題を考える会 理事
精神科医 佐藤 拓 先生よりスライド引用

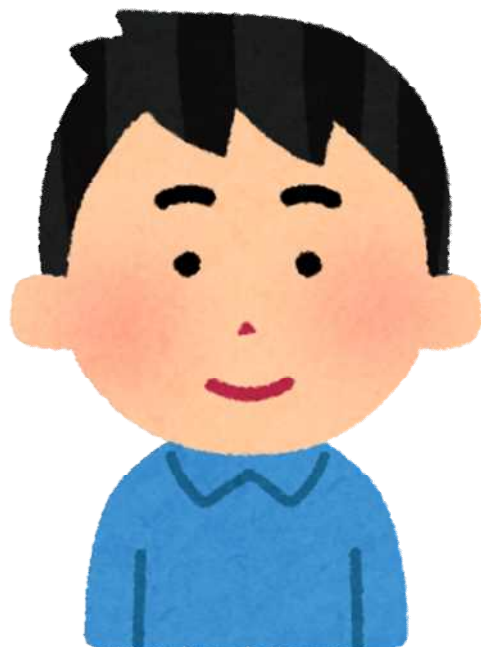
依存症になると





不健康な感情の処理をしていると

はじめは・・・



ふつう

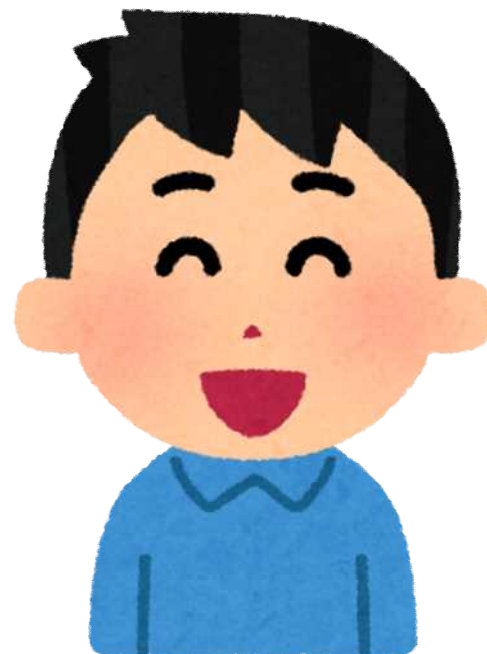
それをやると、



やらないと



ふつうに
もどれる



すっきり
ラクになる



不健康な感情の処理をしていると

病気(依存症)になると・・・



イライラ

それをやると、



やらないと



ふつうにも
もどれなくなる！

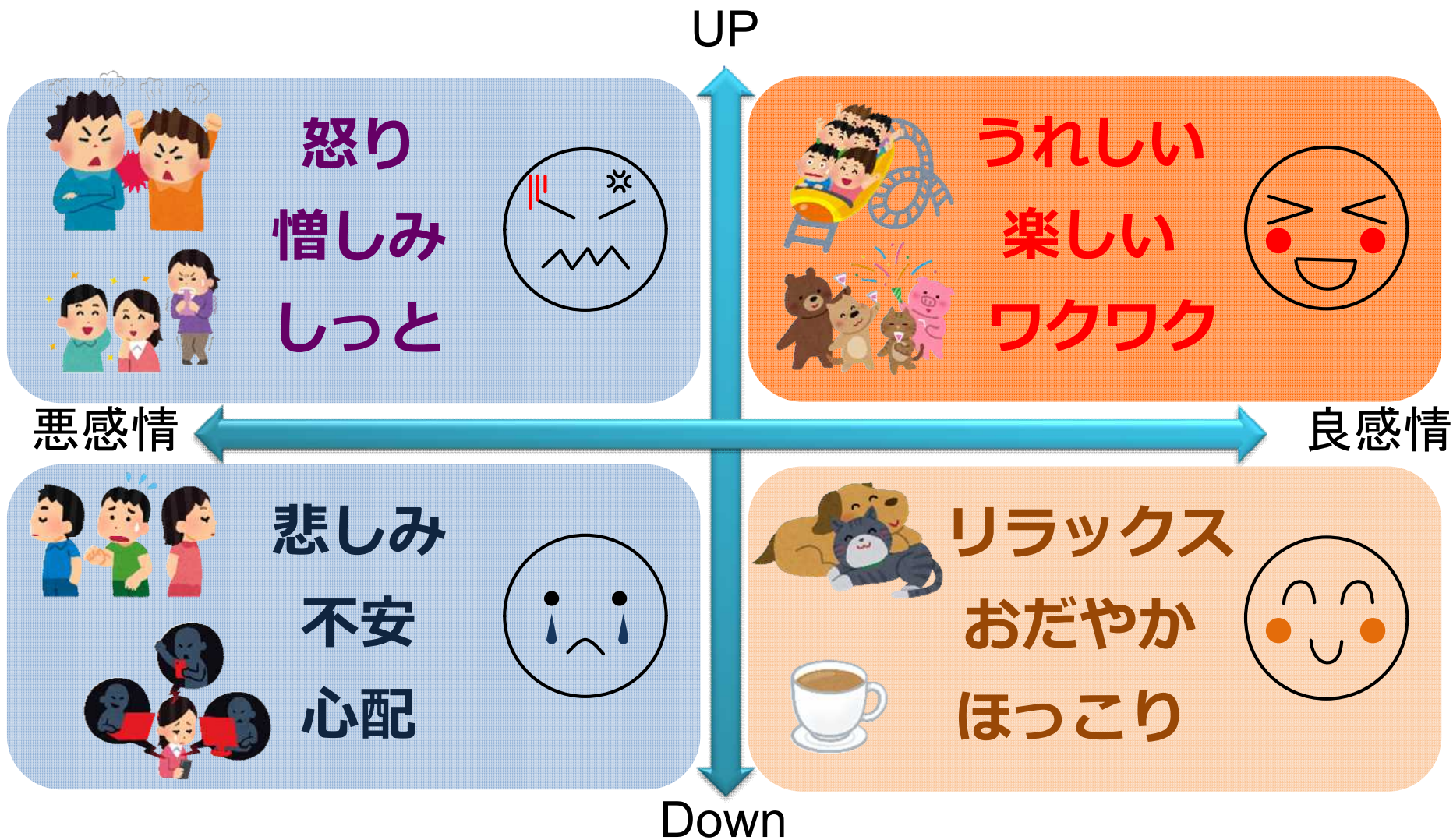


その間だけ
ラクになる



人間の感情

依存症と感情は密接に関わっています



✚ 悪感情を忘れる手段



何かに依存することで
悪感情を一瞬で忘れることができる

不健康な感情の処理



ゲームやスマホに
熱中する



ひきこもる



やけ食いする



酔っ払う



リストカット



衝動買い



ギャンブル

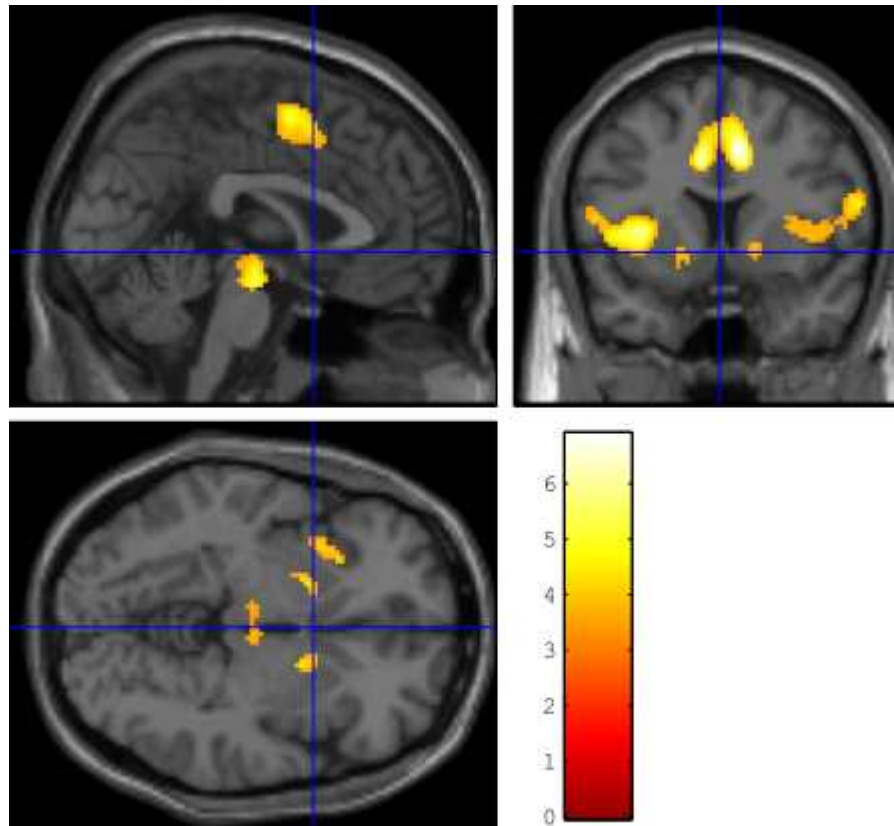


薬物

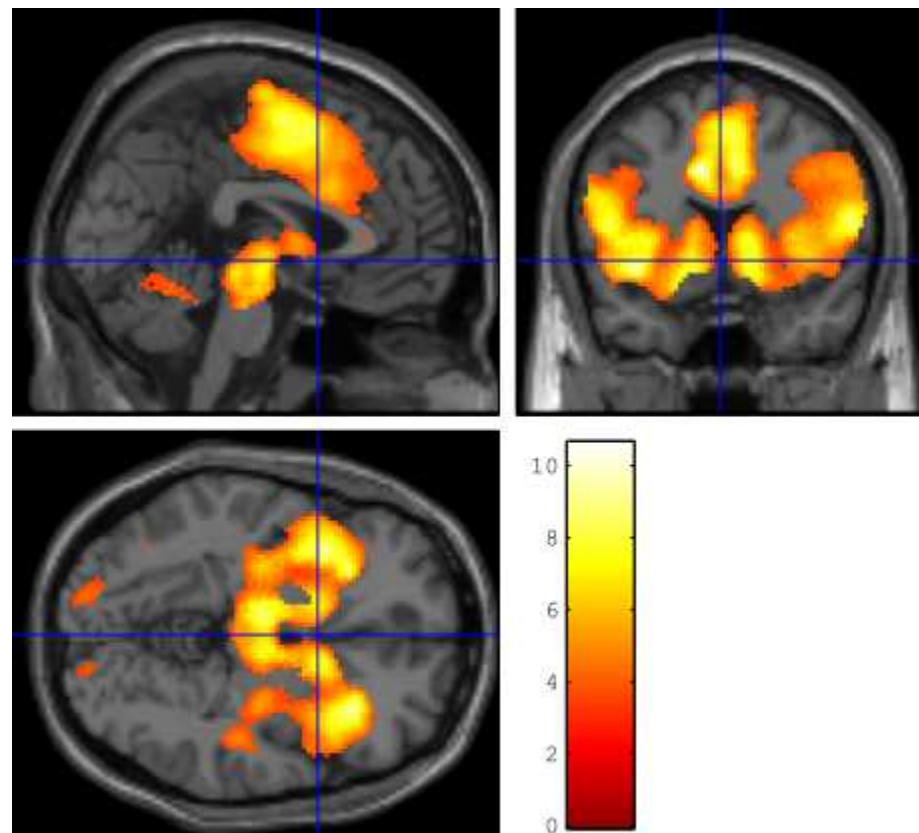


脳の画像診断

病的ギャンブラー群



健康被験者群



報酬を予測するゲーム遂行時の神経活動を測定。線条体、島皮質、帯状回、腹側被蓋野などに活動がみられる。病的ギャンブラー群では、対照群と比べ、低活動であることがわかる。

(京都大学精神医学教室「鶴身ら Frontiers in Psychologyより」提供)

家族がキーマン

家族支援団体のサービスを用いている 家族の抱える困難やニーズの調査

【目的】

本研究では、ギャンブル問題を持つ家族が、本人のギャンブルにより受けてきた影響と援助者に求めるニーズは何かを明らかにすることである。

【方法】

対象者はギャンブル障害のある者の家族である。一般社団法人「ギャンブル依存症問題を考える会」が支援している家族に対して調査協力を依頼し、承諾が得られた方に無記名式の質問紙をお願いし、十分な回答のあった者。

昨年度までに105名の調査と分析を行ったが、本年度は更に事例数を増やして、224名について分析を行った。

質問紙の主な内容は、人口統計学的変数、当事者のギャンブル行動、ギャンブルにより家族として受けた影響、用いた支援機関や支援の有用性や課題等であった。

本研究は、筑波大学医の倫理委員会の承認のもと行われた。

被験者家族の概要

		度数	列の N %
家族の性別	男性	38	17.0%
	女性	186	83.0%
家族の年齢	20代	3	1.3%
	30代	21	9.4%
	40代	38	17.0%
	50代	67	29.9%
	60代	70	31.3%
	70代	25	11.2%
	続き柄	父親	32
母親		82	36.6%
夫		17	7.6%
妻		69	30.8%
兄弟姉妹		1	0.4%
息子		13	5.8%
娘		6	2.7%
親類		1	0.4%
その他		3	1.3%
ギャンブラーの年齢		20代	42
	30代	67	29.9%
	40代	61	27.2%
	50代	34	15.2%
	60代	16	7.1%
	70代	4	1.8%

家族による借金の肩代わり

借金の肩代わりをした経験の有無	N=224		
	あり	188	83.9%
	なし	36	16.1%
借金の肩代わりをした回数	N=188		
	1回	33	19.6%
	2回	33	19.6%
	3回	34	20.2%
	4回	9	5.4%
	5回	12	7.1%
	6-10回	18	10.7%
	11回以上	11	6.5%
	不明・数えきれない	18	10.7%
	無回答	20	—
肩代わりしたお金の合計金額	N=188		
	100万円未満	22	11.7%
	100～300万円未満	48	25.5%
	300～500万円未満	41	21.8%
	500～800万円未満	22	11.7%
	800万円～1000万円未満	17	9.0%
	1000万円以上	31	16.5%
	無回答	7	—

ギャンブルの種類

うちパチンコパチスロのみは143人！圧倒的多数となっています

	N=224	
	人数	%
パチンコ・パチスロ	206	92.0%
競馬	42	18.8%
競艇	14	6.3%
競輪	9	4.0%
オートレース	8	3.6%
宝くじ	18	8.0%
海外カジノ	2	0.9%
国内闇カジノ	7	3.1%
麻雀	21	9.4%
株・FXなどの投機	9	4.0%
その他	10	4.5%



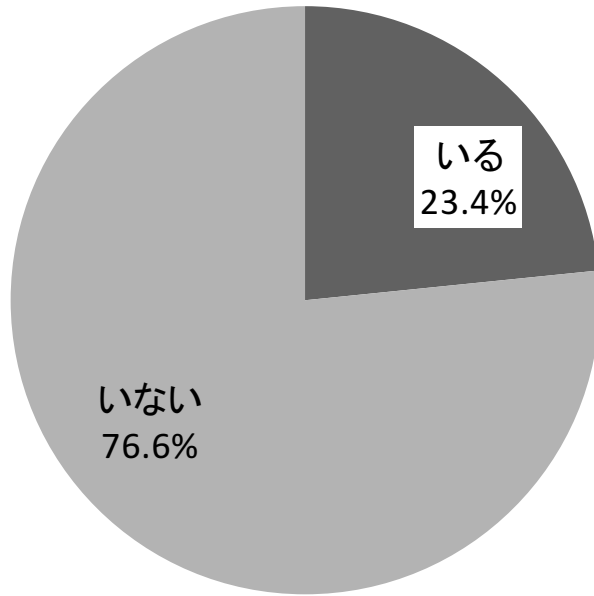
家族がみたギャンブル関連問題

実は**アルコールとのクロスアディクト（複合依存）も多い**ことが分かりました！

	度数	%	無回答
家庭不和・別居・離婚	122	62.6%	29
うつ状態	87	43.7%	25
脅しや言葉の暴力	82	42.3%	30
浪費、借金による経済的困難	69	34.3%	23
異性関係の問題	50	26.3%	34
パートナー・親への暴力	45	23.2%	30
子への暴力・不適切な養育	40	21.4%	37
飲酒運転	31	16.1%	31
暴力・虐待の被害体験	28	14.6%	32
犯罪（ギャンブル関連犯罪以外）	28	14.4%	30
自傷行為・自殺未遂	24	12.4%	31
幻覚妄想状態	22	11.3%	30
アルコールによる身体の問題	17	8.8%	30
アルコール問題による就労困難	7	3.6%	31

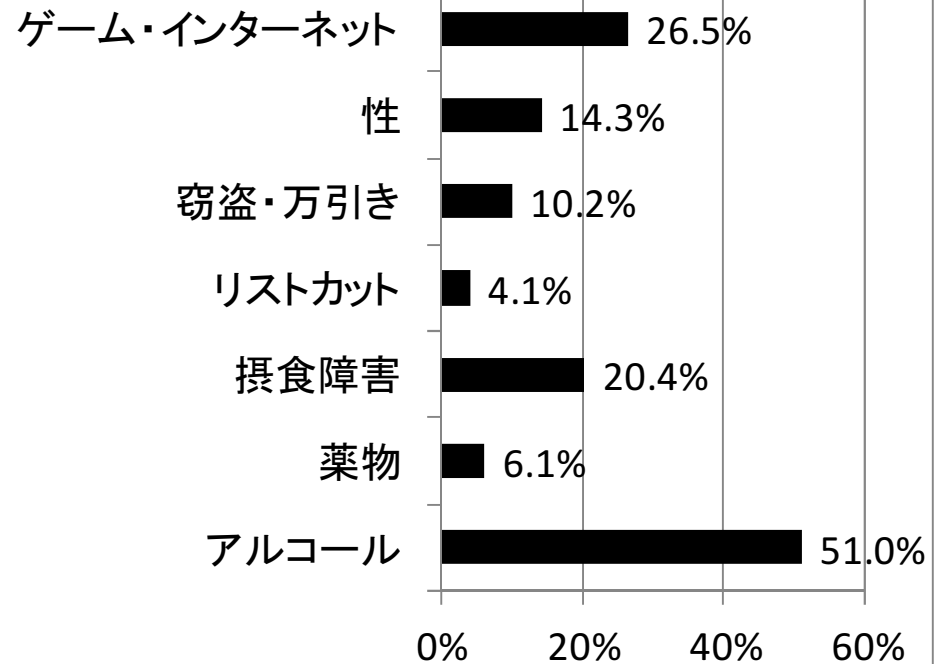
被験者は224名、,%は無回答をのぞいたものである。

家族内における他の依存症問題



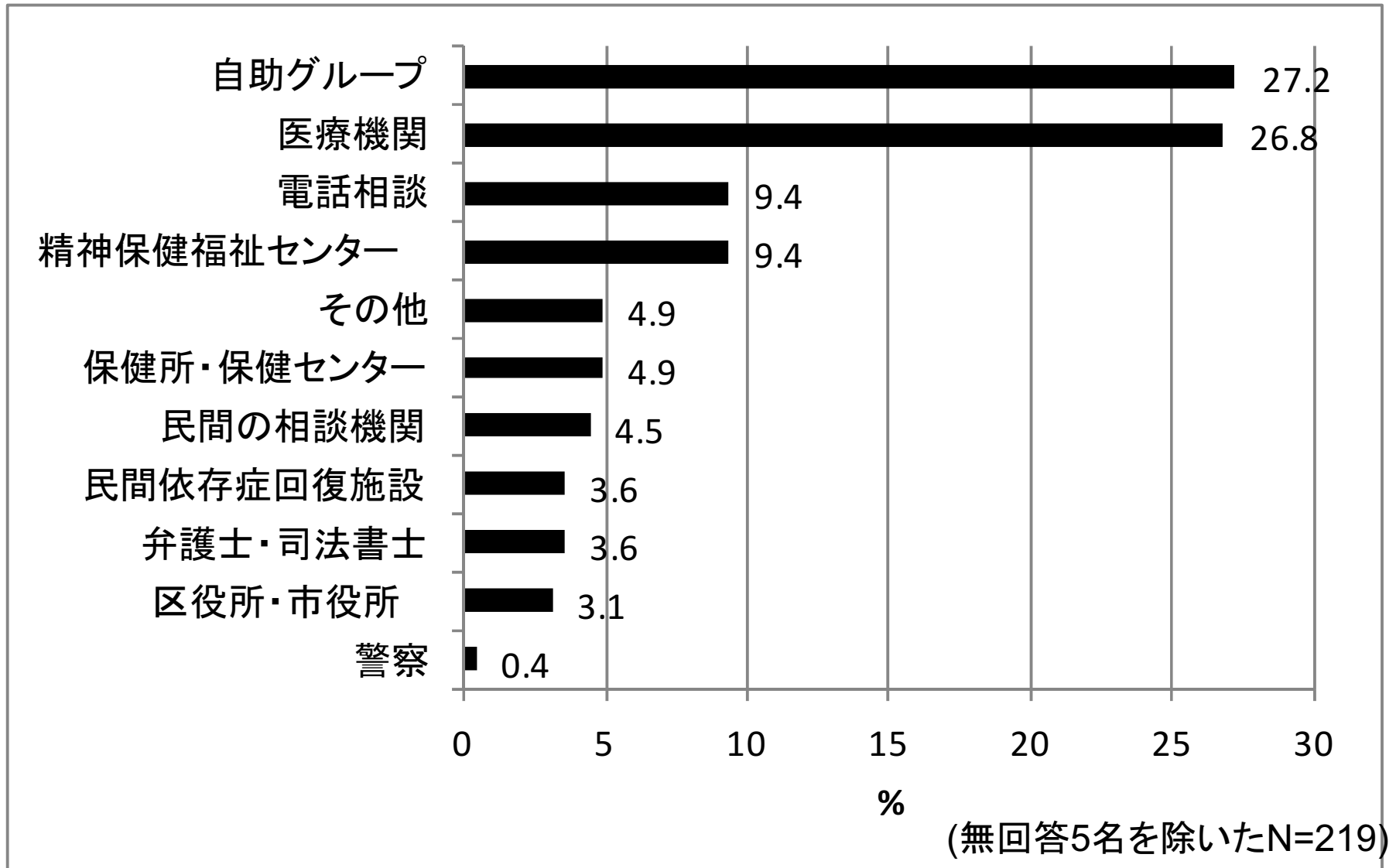
家族の中のギャンブル依存以外の依存症
(無回答を除く218名中)

やはりアルコールの問題が！



家族内にいるギャンブル依存症以外の
依存症があったとした49名中の割合

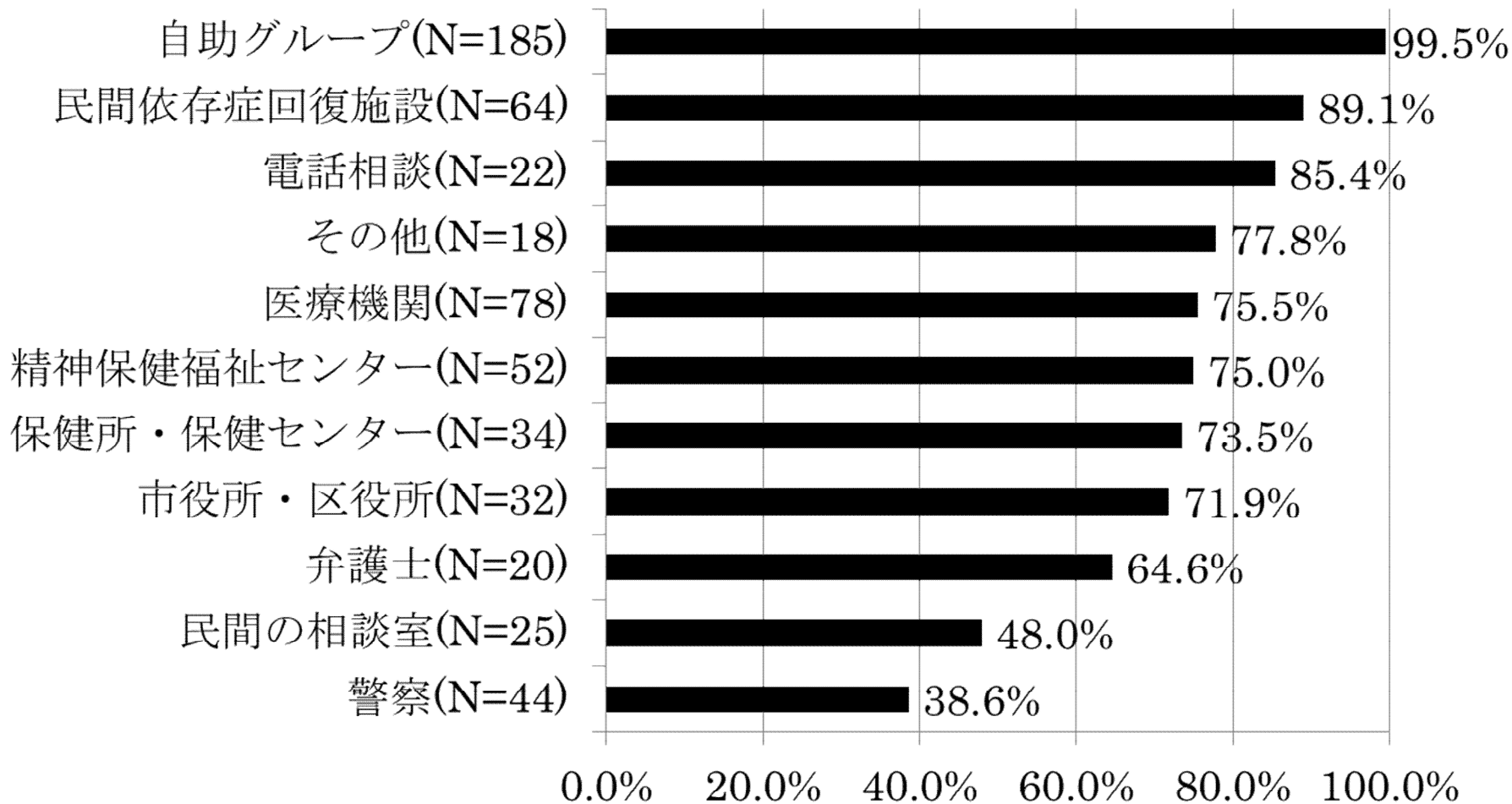
家族が最初に用いた相談機関





これまでに用いた相談機関の有用性

有用性について肯定的な回答(「役立つ」「少し役立つ」の合計)の割合を示した。
無回答は除いた。重複回答あり。



ギャンブル開始年齢

「ギャンブル障害の深刻化に影響する要因の検討」首都大学 新井清美ら

ギャンブル依存症者163人にアンケート調査

年齢	人数
12歳未満	7
12～14歳	9
15～17歳	49
18～20歳	73
21～23歳	13
24～26歳	8
27～29歳	1
30歳以上	3



ギャンブルをする家族の有無

「ギャンブル障害の深刻化に影響する要因の検討」首都大学 新井清美ら

ギャンブル依存症者166人にアンケート調査

いる	いない
103人 (62.0%)	63人 (38.0%)